

【言葉遊び（郵便屋さん・すごろく・言葉集め）】

実践① 5歳児（ゆうびん屋さん遊びから）

文字を読んだり書いたりできるようになり、友だち同士で手紙を書きやりとりをするうち、ポストに投函したり、ゆうびん屋さんになって届けたりして、ゆうびん屋さん遊びが始まった。消印スタンプ、帽子、バック、郵便車など、必要なものを用意したり作ったりして、代わり合って遊んでいた。

実践②（すごろく）

校区地域の地図を作り、それをすごろくにして、そのパネルを園児の見えるところに置いておく。散歩に行く前に場所を確認したり、どの地域に何があるのかを知ったりすることができた。

（成果）

- ・友だち同士で、「ここにはどんぐりが沢山落ちとるやんな。」「この坂、おもしろいな」「こんど、この神社行ってみたいな。」と話をしたり、場所の確認をしたりしている。
- ・パネルを外して友達同士ですごろく遊びをしているときは、「何回すすむ」「何回もどる」「一回お休み」「順番な」と言いながら楽しんでいる。また、「次は〇〇山」「〇〇ダムまで 進んだ」と地域の名所を言いながら楽しんでいるので場所の名前を覚えたり、親しみを持つことにより、それぞれ自分の行く小学校や地域のことを知ったり、また他の校区のことも知るきっかけになっているのではないかと思う。

実践③ 5歳児（ことばあつめゲーム）

「カルタ遊び」や「すごろく遊び」を通して、ひらがなや言葉に対する興味が高まっているので『ことば集めゲーム』に取り組んだ。あたまたに『あ』の付く言葉、『い』の付く言葉を考えて、発表し合うゲームである。

思いついた園児から手を上げて発表し、保育者はボードに書きとっていく。一人一人個人で発表するだけでなく、グループを作り、グループ対抗で言葉の数を競い合う。グループ分けの段階から、園児同士で人数を数え、人数調整をしている。「今日は18人やから6人ずつやで。」「今日はお休みの子がいるから、1人少ないよ。」「こっちのグループに1人来て～！」と言いながら、園児同士で人数の調整をしている。

グループ名もその日その日のメンバーで話し合う。保育者が「相談して、決めようね！」と伝えると「相談って何？」「僕は、鬼滅チーム！」「違うで。1人で決めるんじゃないで。みんなで考えて、決めるんやで！」と言いながら相談している。このチーム名を決める活動も、園児達にとって、とても楽しい活動であり、友達と相談するという貴重な経験となる。

すぐにチーム名が決まることもあれば、いつまでも自己主張が続き、決まらないこともある。妥協したり、折り合いを付けたりして、チーム名が決まった時には「決まった！」と嬉しそうに顔を見合わせている。

『ことば集めゲーム』を通して、友達と相談したり、同じ目標に向かって取り組んだり、また、言葉や数に対する興味が一段と深まっているのを感じる。

実践④ （ごっこ遊び）

夏、5歳児は、『おいしいのぼうけん』という絵本を読んだことをきっかけにクラスで「ぼうけんごっこ」が始まりました。共同制作としておぼけの森を部屋いっぱいにつくり、誰が何を作るか話し合ったり、いろんな役を自分たちで決めて交代して遊んだりしました。

遊びのルールを作ったり、「今日も昨日の続きをしよう！」と意欲的に登園し主体的に遊びをつくったりする姿がみられました。遊びの中で、物がどれくらいあるかを数で表すと明確になることに気付いたり、文字は言葉を伝えるツールであることが分かってきます。その楽しかったごっこ遊びの経験を基に生活発表会に向けて『ピーターパン』で遊んでいます。